

乳幼児健診で発見した腎疾患のフォローアップに 関する研究

分担研究報告書

分担研究者 吉崎正義*

総括： 本研究班では、保健所で実施されている三歳児健康診査の尿検査に着目し、この尿検査の実態について調査した。

研究班では以下の3つのリサーチクエスションに基づき、研究を実施した。

- (1) 三歳児健康診査尿検査は幼児の腎・尿路系疾患の早期発見にどのように寄与しているか。
- (2) 三歳児健康診査における尿検査異常児の予後はどうか。
- (3) 幼児の尿検査の在り方はどうあるべきか。

研究班では、過去の三歳児健康診査の尿検査において何らかの異常を示した児についての、現在における状況を調査することにより、三歳児健康診査尿検査の評価を実施すると共に、今後の小児慢性腎疾患の早期発見を目的とした効率的な尿検査の在り方について検討するための基礎的な資料を得ることを目的とした。

今回の調査は、三歳児健康診査尿検査において異常と判定された児の、長期間のフォローアップ調査であったが、結果としては健康診査後に再検査、精密検査を受診して特に治療の必要が無かったものについては、その後3年間については、特に治療が必要な状況にはなっていないということである。

また、従来から言われていた蛋白、潜血検査の同時異常者の疾病発見率が高いことや、潜血検査の追加により疾病発見率が向上することも改めて確認され、これにより、尿潜血未実施自治体における、潜血検査の導入が一層図られることが望まれる。